様　式　Ｆ－７－１

科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）実施状況報告書（研究実施状況報告書）（平成２８年度）

1．機関番号　３２６０４

2．研究機関名　大妻女子大学

3．研究種目名　基盤研究(C)（一般）

4．補助事業期間　平成２７年度～平成２９年度

5．課題番号　１５Ｋ０３８２０

6．研究課題名　ガバナンスのリスク社会論・監査社会論的研究――資本主義と民主主義の現代的変容

7．研究代表者

研究者番号	研究代表者名	所属部局名	職名
００２０９４２０	マサムラ　トシユキ 正村　俊之	社会情報学部	教授

8．研究分担者

研究者番号	研究分担者名	所属研究機関名・部局名	職名
６０２６１５５９	カトウ　マサヨシ 加藤　眞義	福島大学・行政政策学類	教授
９０３０２０６７	コマツ　タケアキ 小松　丈晃	東北大学・文学研究科	准教授

9．研究実績の概要

本研究は、ガバナンスとリスクに着目して、1980代以降における情報化、グローバル化、新自由主義的な改革のもとで進行している現代社会の構造変容を理論的かつ実証的に解明することを目的としている。

すでに初年度において、現代社会のさまざまな社会領域でコーポレート・ガバナンスに類似するガバナンス構造が形成されていることを明らかにした。コーポレート・ガバナンスは、株主と経営者の間に、1.「本人/代理人」、2.「問責（監査）と答責（アカウンタビリティ）」、3.「権力手段としての貨幣」という3つの要素から成り立っているが、一連のガバナンス改革をつうじて、このようなガバナンス構造が非経済領域にまで浸透していることを示した。

そして昨年度は、現代社会では、監査概念だけでなく、リスク概念も拡張されることによって、リスクが組織や社会の統治原理にまで高められてきたことを示した。会計上の概念であった監査概念が、今では「VFM監査」「環境監査」「医療監査」など多様な意味を持つように、リスク概念も、地震、戦争、テロといった特殊な出来事に内在するのではなく、組織や社会の活動全般に内在する問題として捉えられるようになった。その結果、ガバナンスとリスクの間に緊密な関係が生まれてきている。リスク・ガバナンスとしてリスクの管理に力が注がれるとともに、ガバナンス全般がリスクの問題として把握されてきている。このような変化は、企業組織で最も進んでいるとはいえ、企業組織以外の組織でも進行しており、そのことが、機能分化した近代社会の変容に繋がっていることを明らかにした。

（注）・印刷に当たっては、Ａ４判（縦長）・両面印刷すること。

10. キーワード

(1) コーポレート・ガバナンス	(2) リスク管理	(3) 監査	(4) アカウンタビリティ
(5) リスク・ガバナンス	(6) 統治原理	(7) 情報化	(8) 貨幣

11. 現在までの進捗状況

（区分）（1）当初の計画以上に進展している。

（理由）

すでに昨年度は、昨年度に計画していた内容以上の研究を行ったので、今年度の予定を実行しつつ、これまでの研究成果をまとめる作業を行った。具体的には、外部メンバー二人（中央大学の高橋徹氏と千葉商科大学の荒川稔彦氏）を加えるかたちで、勁草書房から『ガバナンスとリスクの社会理論』（仮題）を出版するための作業を行った。現在、全員の原稿がそろいつつある段階である。また、代表者である正村は、単著として『民主主義の危機――自己組織化のゆくえ』（仮題、400字×412枚）を脱稿し、年度内に刊行する予定である。

12. 今後の研究の推進方策　等

（今後の推進方策）

本研究は、ガバナンスとリスクに関する理論的かつ実証的な研究をとおして、現代社会のなかで進行している資本主義と民主主義の変化を解明することを目的としている。資本主義と民主主義は、近代社会のなかで機能分化した経済システムと政治システムを表しているが、その二つのシステムがどのように変化しているのかを解明することが最終的な目的となる。

（次年度使用額が生じた理由と使用計画）

（理由）

15万円ほどの次年度使用額が生じたが、それは、研究会の開催が流会となり、出張費の支出が少なかったことと図書の購入数が少なかったためである。

（使用計画）

出張旅費の補填および図書の購入にあてる。

（課題番号： 15K03820 ）

（注）・印刷に当たっては、Ａ４判（縦長）・両面印刷すること。

13.研究発表（平成２８年度の研究成果）

〔雑誌論文〕　計（３）件／うち査読付論文　計（２）件／うち国際共著　計（０）件／うちオープンアクセス　計（０）件

著者名	論文標題
加藤眞義	研究のフロンティア 東日本大震災と日本社会の再建：地震，津波，原発震災の被害とその克服の道

雑誌名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁	国際共著
理論と方法	有	31-2	2016	1-1	－

掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）
なし

オープンアクセス
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難

著者名	論文標題
小松丈晃	U.ベックの「無知」の社会学―「戦略的無知」論に向けての展開可能性

雑誌名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁	国際共著
社会学研究	有	98	2016	91-114	－

掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）
なし

オープンアクセス
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難

著者名	論文標題
小松丈晃	<無知>の社会学―無知の戦略的利用について

雑誌名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁	国際共著
現代思想	無	3月号	2017	220-232	－

掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）
なし

オープンアクセス
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難

（課題番号： 15K03820 ）
（注）・印刷に当たっては、Ａ４判（縦長）・両面印刷すること。

〔学会発表〕　計（０）件／うち招待講演　計（０）件／うち国際学会　計（０）件

発　表　者　名	発　　表　　標　　題	
学　会　等　名	発表年月日	発　表　場　所

〔図書〕　計（２）件

著　者　名	出　版　社	
正村俊之	ミネルヴァ書房	
書　　名	発行年	総ページ数
社会理論の再興―社会システム論と再帰的自己組織性を超えて	2016	355（267―288）

著　者　名	出　版　社	
小松丈晃	ミネルヴァ書房	
書　　名	発行年	総ページ数
社会理論の再興―社会システム論と再帰的自己組織性を超えて	2016	355（307-329）

14.研究成果による産業財産権の出願・取得状況

〔出願〕　計（０）件

産業財産権の名称	発明者	権利者	産業財産権の種類、番号	出願年月日	国内・外国の別

（課題番号： 15K03820 ）

（注）・印刷に当たっては、Ａ４判（縦長）・両面印刷すること。

〔取得〕　計（０）件

産業財産権の名称	発明者	権利者	産業財産権の種類、番号	取得年月日	国内・外国の別
				出願年月日	

15.科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計（０）件

国際研究集会名	開催年月日	開催場所

16.本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

（１）国際共同研究：－

17.備考

（課題番号： 15K03820 ）

（注）・印刷に当たっては、Ａ４判（縦長）・両面印刷すること。